



学会ホームページ <http://jasce.jp>

## 036号(2017年1月20日)

### 目次

2017年 年頭のご挨拶  
次期大会開催地からのご挨拶  
『協同と教育』への投稿募集中  
会員情報の変更届  
会費の納入のお願い  
学会ワークショップ  
各地の研究会・勉強会  
出版情報

### 2017年 年頭のご挨拶

明けましておめでとうございます。

皆様のご健康と、実践・研究のますますのご発展を祈念いたします。

昨年度、私が会長の襷をお受けしたのは三重大学での第13回大会時でした。この大会は、現代の教育課題に応える学習指導論としての協同教育の意義の理解をさらに深めるものでしたし、特別支援教育、ICT活用といった新しい課題に向けての挑戦への確かな予感の持てる機会となりました。

文科省では、次期学習指導要領作成に向けた大胆な議論がはじまっています。その議論で注目すべきは教育の「不易」の側面にもしっかりと注意を向けてきていることだと思います。学校教育がめざすべき本質的な目標としての学力の論議、アクティブラーニングのような学習者の心理を踏まえた実践の工夫などの議論が相当健全になされている印象をもちます。学習者がどう変わったかを視点に置く学習論や発達の観点の重要さへの言及などに見られるように、教える側の論理で進められてきたこれまでの教育が大きい

く変貌しそうな予感があります。

ただ、そういった方針の先にある実践の姿の多くは、すでに協同教育学会の会員の間で実現されているものであり、理論的にも明らかに学会の方が先行をしています。カリキュラムマネジメントという形での教員の側の主体的な教育づくりの視点も示されていますが、これは協同教育が機会あるごとに強調してきた研究的実践に含まれるものです。

教育行政の動向は、協同教育の実践と研究の後押しととらえたいと考えます。協同教育学会が確信をもって進めてきた実践と研究の先進性を声高に言っても意味のあるものにはならないと思うのです。教育改革の大きな流れが協同教育の方向に動いているとしても、協同教育の側がこれまでの成果に安住していたのでは、確かな教育理論を定着させる力にはなりません。日本の教育現場では、単に技法をなぞるだけに終始した改革のまねごとでしばしばお茶を濁してきました。理論から変えていくことが必要です。

学会として、さらに次の課題を見つけ、実践と研究を重ねていく決意が必要な時代に入ったと考えます。本年が会員の皆様の模索と挑戦の年となり、新しい次のステップが見えてくる年になればと期待している次第です。

2017年1月1日

日本協同教育学会 会長 杉江修治

### 次期大会開催地からのご挨拶

来年度の第14回大会は岡山大学教育学部で10月28日(土)～29日(日)に開催します。現在、講義棟の改修工事が進行中で、今年度末には完

了予定です。新しい会場で皆様をお迎えますことを楽しみにしております。なお、前日27日(金)には岡山県立倉敷青陵高等学校にご協力頂き、「プレ大会」として同校の公開授業研究会に学会員が参加できるようになっております。同校では「高質な学力養成のためのアクティブ・ラーニングの在り方」を研究主題に掲げ、指導教諭(5教科)を中心とした「学習指導研究室」を設置し、授業改善に取り組んでおられます。併せて皆様のご参加をお待ちしております。

(第14回大会実行委員長 高旗浩志)

### 『協同と教育』への投稿募集中

『協同と教育』への投稿は随時受け付けております。現在、投稿受理から査読を経て採択が決定されるまでに数ヶ月を要しております。編集委員会では学会機関誌『協同と教育』第13号(2017年発行)に向けての積極的な投稿をお待ちしております。

### 会員情報の変更届

年度がわりの異動や転居などにもなって、所属・住所・メールアドレス等の変更があった場合、すみやかに会員情報変更をお願いします。届け出は学会ホームページの「会員情報変更フォーム」から随時可能です。  
(<https://www.jasce.jp/php/1044form.php>)

### 会費の納入のお願い

今年度(2016年4月～2017年3月)会費支払いがまだの方は早急の納入をお願いいたします。3年度を超えて会費が未納となった場合、自動的に退会扱いとなりますのでご注意ください。

# JASCE

## 学会ワークショップ

### ●<ベーシック>開催報告

1月5日(木)～6日(金)【主催】

会場:北海道立道民活動センター か  
でる2・7(札幌市)1060会議室

講師:水野正朗



北海道ではじめてのベーシックが開催されました。「北海道アクティブ・ラーニング(協同と創造の授業づくり)研究会」が会場運営を担当されました。参加者は35名。札幌近郊はもちろん、根室、稚内などの遠隔地を含め、道内各地から多くの参加がありました。札幌市内は雪が舞って路面が凍結していましたが、会場の雰囲気はなごやかであたたかでした。新学習指導要領の改定に向き合おうという先生方の真摯な姿勢が印象的でした。ここに集って、楽しく学び合った仲間が、また北海道の各地に戻って、さらに協同の輪を広げてくださるだろうと確信できるワークショップになりました。

(水野正朗)

### ●協同学習ワークショップ

#### <一日研修>を開催

2016年12月11日(日)朝10時から夕方4時半、中京大学名古屋キャンパスで協同学習ワークショップが開催されました。参加者は8名。講師は、有本高尉先生(日本協同教育学会認定トレーナー)と水谷茂先生(日本協

同教育学会認定トレーナー)。協同学習の考え方、協同学習を用いた授業づくり、明日の授業に役立つ協同学習の基本的な手順、参加者自身が協同学習を通して体験的に学びました。関東地区・中国地区といった遠方からの参加者もあり、充実した内容の研修会になりました。

### ●水谷茂の協同学習実践講座

2016年11月27日(日)中京大学名古屋キャンパスで「体験を通して学ぶ協同の授業づくり～アクティブ・ラーニング型授業への転換」と題して実践講座を開催しました。学生、小・中・高・大・院・研究者と幅広い層から18名の参加がありました。遠くは山口や広島からの参加もあり協同学習への関心の高さが分かりました。今年で3回目になるこの講座ですが、今回は特にアクティブ・ラーニングそのものである協同学習の良さを実感していただけるように授業体験や授業DVD視聴の後の話し合い活動で、参加者同士が協同的に学ぶことができるように心がけました。(写真はメリーゴーランドを使って情報収集しているところです。)[実践を通じて協同学習を学べるのは本当に良いと再認識しました。]「本で読んだだけではイメージできなかった



ジグソーやバズを実際に体験することで理解することができました。一人一人の役割や責任が明確で自然と主体的な動きにつながりました。」などの感想が寄せられ、充実した1日になったことがうかがえました。

(水谷茂)

### ●今後の予定(判明分)

#### <ベーシック>

◇3月11日(土)～12日(日)【主催】

会場:創価大学 教職大学院棟  
(八王子市)

講師:太田昌宏

◇3月11日(土)～12日(日)【主催】

会場:鳥取看護大学(倉吉市)

講師:安永悟・須藤文

#### <アドバンス>

◇3月11日(土)～12日(日)【主催】

会場:創価大学 教職大学院棟  
(八王子市)

講師:伏野久美子

#### <マスター>

◇3月4日(土)～5日(日)【主催】

会場:中京大学(名古屋市)

講師:研修委員会

#### <一日研修>

◇2月19日(日)【公認】

会場:石川県こまつ芸術劇場  
(小松市)2F会議室

講師:有本高尉・水谷茂

※定員になり次第、受付を終了します。お申込み方法、ならびにワークショップの詳細は下記 URL をご覧ください。

(<https://jasce.jp/1031workshop.php>)

# JASCE

## 各地の研究会・勉強会

(北海道地域)

北海道アクティブ・ラーニング(協同と創造の授業づくり)研究会

◇北海道初となる本学会主催の認定ワークショップ(バーシック)が、1月5日(木)～6日(金)の両日、札幌市内の「北海道立道民活動センター かでる2・7」を会場に行われ、本研究会が現地スタッフとして運営にあたりました。詳細はワークショップの報告記事に譲りますが、愛知県や全道各地から参集した仲間が期待に違わぬ学びと気づき、授業づくりへのヒントを得て帰途につくことができました。講師の水野正朗先生に厚くお礼申し上げます。また、本会は夏季研修会開催を恒例化することを目指していますが、今年は7月27日(木)～28日(金)に札幌市内で開催する予定です。詳細については今後詰めていきますが、会員による実践発表、協同教育・学習の入門的講座、特別講演(講師交渉中)等を予定しています。道内・道外の皆様のご参集をお待ちしています。

(東北地域)

◇学会では東北や熊本の震災支援に取り組んでいます。東北支援の一貫として、1月14日、13時～16時、宮城県の先生方を対象に宮城「協同学習を学ぶ会」を開催しました。会場はTKYガーデンシティ仙台、駅から雪に濡れずに移動できる素敵な会場に37名の先生方が集まりました。グループ学習との違いに気づけた、アクティブ・ラーニング導入の意味を納得できた、といった前向きな感想が多く聞かれました。今回を第一歩として、これ

からも様々な学びの機会を設けていきたいとの、世話人の熊谷先生の熱い思いが、参加者と確かに共有されたひと時でした。



(東京・関東地域)

協同教育カフェ in 八王子

◇1月28日13時から16時半、本年最初のカフェを創価大学教育学部棟B303教室で開きます。資料の都合がありますので、参加をお考えの方は、ご一報ください。

連絡先: 関田一彦

(sekita@soka.ac.jp)

(名古屋・東海地域)

名古屋・協同の学びをつくる研究会

◇12月例会を12月16日(土)19時～21時30分、名古屋大学教育学部第1講義室で開催しました。テーマは「イェナプラン教育」の要素を用いたアクティブ・ラーニング型の授業と部活動の実践」。報告者は若杉逸平先生(名古屋市立工芸高等学校教諭)。オランダで発展したイェナプラン教育の「20の原則」が紹介され、年間カリキュラムとして生徒たちが自主的に研究発表する授業事例や、部活動指導に「サークル対話」を取り入れた事例が報告されました。サッカー部などの部活指導者も多く出席され、活発な

討議が行われました。

連絡先: 水野正朗

(mizunokita@yahoo.co.jp)

協同学習と動機づけ研究会(三重県)

◇2月4日(土)14時30分から18時の予定で、三重大学環境・情報科学館3階PBL演習室3・4において、標記の研究会のはじめての会を開催いたします。内容は、「協同学習と動機づけとの関わり」ということで、協同学習における「グループの改善」において、動機づけ理論での知見がどのように活かすことができるかについて、中西良文から話題提供を行い、参加者相互で「考える」会にしたいと考えております。また、今後の研究会の方向についても議論できればと考えています。はじめての会ということで、手探りではございますので、拙いものになるかもしれませんが、みなさまのご参加をお待ちいたしております。

連絡先: 中西良文

(nakanishi.yoshifumi@mie-u.ac.jp)

(大阪地域)

協同学習を用いた看護教育研究会

◇1月27日の研究会では、大阪市立大学医学部看護学科基礎看護学の江頭典江先生が、「与薬の援助技術」の導入にジグソー 2を用いて、南大阪看護専門学校母性看護学の堀川真知子先生が、ジグソー学習法を用いた母性看護技術演習の授業展開について発表されます。参加申し込みは、すでに満席です。参加者が互いの実践・研究から学び合い、自らの

# JASCE

専門性・教育実践にヒントを得る貴重な場となっています。3月は杉江修治会長をお迎えし、教育・研究の土台となる「協同の精神」を深く学んでいきたいと考えています。

◇今後の開催予定

場所: グランフロント大阪 アクティブスタジオ

時間: 19時～21時

日程: 2017年1月27日、3月24日(杉江会長をお迎えします)

参加申し込み先 緒方巧(梅花女子大学 t-ogata@baika.ac.jp)

(岡山・中国方面)

協同学習研究会

◇協同学習研究会(12月研究会)の報告

2016年12月3日(土)午後2時～午後5時30分、岡山大学教師教育開発センター東山ランチを会場に、岡山市立福浜中学校における組織的な授業改善の取組をご紹介します。約730名の大規模校で、教師の協同性を活かした研究組織をつくり、学級集団づくりと学力向上を研修の2本柱として、年間15時間以上、計9回の校内研修を実施し、全教員が研究授業を行う学力向上の研究に取り組んで来られました。緻密な計画と必然性ある研修組織の構造は、参加された先生方に多くの知見を提供して頂ける内容となりました。

◇今後の開催予定

今年度の開催予定は次の通りです。

・協同学習研究会 EXTRA 2017年1月28日(土)午後2時～午後4時30分

宮本真也先生(岡山市立豊小

学校):初めての6年担任としての授業づくり・学級づくり

・協同学習研究会 2017年3月4日(土)午後2時～午後5時30分

瀬田幸一郎先生(岡山県立倉敷中央高校・理科)

連絡先:高旗浩志(岡山大学教師教育開発センター)

E-Mail :takahata@okayama-u.ac.jp

(福岡・九州方面)

授業づくり研究会

◇第38回研究会の報告

2016年12月10日(土)午後1時～午後5時、久留米大学御井キャンパスで開催しました。長田敬五先生(日本歯科大学)による「LTD Based

PBL」、須藤文先生(久留米大学)による「LTDを活用したライティング指導の実際:看護学生を対象としたエッセイ作成」の報告など、LTD学習を軸にした盛りだくさんの内容となりました。

◇今後の日程

今後の開催日は2月4日(土)、5月13日(土)、9月30日(土)、11月18日(土)。午後1時～午後5時。会場は久留米大学御井キャンパス、ミーティングルーム3です。本研究会への参加申込みは安永悟研究室のHPからお願いします(<http://yasunaga.me/wiki.cgi>)。

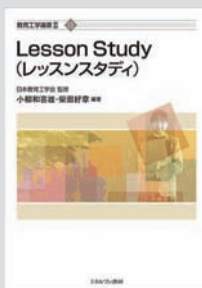
連絡先:安永悟

(yasunaga\_satoru@kurume-u.ac.jp)

## 出版情報

● Lesson Study(レッスンスタディ)

日本の学校現場には、古くから教師同士が協働で授業を研究する文化があります。教師同士の教え合いや学び合いによって、徒弟的に学ぶ環境をつくり、教師の巧みな技を伝えてきました。このような授業研究の文化に諸外国の注目が集まり、現在はLesson Studyと呼ばれて世界各国で実践されています。本書はLesson Studyの最新の動向と、諸外国での事例を紹介します。小柳和喜雄・柴田好章編著。教育学選書Ⅱ第11巻。ミネルヴァ書房。



● わくわくコミュニケーションプログラム 心理学を活用した実践と評価

本書では、子どもが仲間とともに関わり、楽しみながらコミュニケーション力を身につけられる様々なプログラムが、重視するコミュニケーションスキルごとに紹介されています。それらに加え、コミュニケーション力育成についての理論的背景とその評価の方法も紹介されています。特に、コミュニケーション力の評価に関しては、評価方法だけでなく、評価を含んだ活動全体が具体的な活動案として紹介されています。廣岡秀一監修、廣岡雅子・中西良文編著。ナカニシヤ出版。

